

Nanakamado



vol. 47

ななかまど

北海道情報大学 学内報 2009.12.01 発行



写真/ラッピングバス



発行：北海道情報大学
〒069-8585
江別市西野幌59-2
TEL 011-385-4411
FAX 011-384-0134

目次

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 02 ■ 教育の地殻変動が始まっている | 25 ■ 自衛消防訓練を実施 |
| 04 ■ 名誉教授称号授与式を行う | 26 ■ 北海道情報大学 大学説明会 in札幌 |
| 05 ■ 第1回高大連携協議会開催 | 27 ■ キャリアデザインII |
| 06 ■ 新任教員あいさつ | 28 ■ 学生SC・保護者懇談会を実施 |
| 08 ■ 蒼天祭を終えて | 29 ■ ピアサポートルームを移設 |
| 09 ■ 蒼天祭で模擬店を出店して | 30 ■ 学生SC・史興君、国家試験に合格 |
| 10 ■ 蒼天祭フォトアルバム | 31 ■ 新型インフルエンザについて |
| 12 ■ 図書館より | 32 ■ 学生SC・留学生秋の宿泊研修 |
| 13 ■ 楽しく熱気に溢れた学内囲碁大会 | 34 ■ セミ紹介 |
| 14 ■ 海外事情・中国編 | 35 ■ クラブ紹介 |
| 16 ■ 海外事情・アメリカ編 | 36 ■ 大学行事等 |
| 24 ■ 大学院生等の学会発表について | |

教育の地殻変動が始まっている

副学長 富士 隆

平成17年の夏休みが終わった頃だったろうか、学内に新しいプロジェクトがスタートとした。その名は、現代G Pプロジェクト。今では教育G Pプロジェクトとして継続している。毎週月曜日の朝九時から、ICTを利活用して本学の教育をどう変えていくのかをテーマに教職員とメディア教育センターのメンバーが、また毎月どこかの夕方の六時過ぎから教育の改善に向けてFDの各ワーキンググループの教職員が、各々熱い議論を行っている。

学生はプロジェクトで成長する

文部科学省に採択された現代G Pプロジェクトは、「ITによるIT人材育成フレームの構築」をテーマに、学習者適応型ラーニングシステム(POLITE)を開発した。平成17年度から19年度の三カ年にわたって、システム開発と教材開発が行われ、正規授業で活用されている。わが国では、eラーニン

グは対面授業ほど学習効果が上がらないといわれているが、POLITEでは、学習者適応型の仕組を新たに開発することで、対面授業と同等またはそれ以上の学習効果を出している。そして、POLITEのシステム開発や教材開発の作業で学生が参加し、立派に仕事を成し遂げ、成長していった。プログラミングや教材開発の知識を学びながら、それらを実際に開発の現場で活用し、成果を確認することで達成感を感じ取れたのである。その学生たちの強い要望で、現代G Pプロジェクト終了後もeラーニング推進センターという組織が残されている。現代G Pプロジェクトから学んだことの1つは、学生にやらせる仕組みを作ることの大切さである。情報メディア学部では、これまで学生が携わるプロジェクトを実施しており、メディアクリエイティブセンター(MOC)の設立によって、プロジェクトに取り組みためのより良い環境が整っている。

なぜFDに取り組むのか？

わが国では、十八歳人口の減少によって大学全入時代を迎え、多様な学生が年々増加している。そのため、大学入学生に対するリメディアル教育と大学教育の質保証が重要になっている。そんな中で、大学におけるFD(ファカルティディベロップメント)が、平成21年4月から義務化され、本学でもFD委員会を設立し、その活動が全学的に開始された。また、平成20年度の教育G Pにも採択されたことで財政的な支援を得て、「ICTによる自律的FD推進モデルの構築」に取り組んでいる。本学のFD活動の特徴は、ICTを利活用して教育の質を向上させる点にある。

平成21年1月12日、13日、横浜で文部科学省主催の「平成20年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」が開催された。総額六百八十億円、教育G Pを含む十四のプログラムの合同フォーラムで、

本学の教育G Pプロジェクトの取り組みも発表したが、その基調講演等での中央教育審議会のメンバーからの発表は、わが国の大学教育の危機を強く訴えるものであった。それは、「学部の学生の質の向上なくして日本の将来はない」ということである。大学教育の改革には、「教育の質の改善」と「財政支援」が必要であるが、世間から今の大学生は遊んでいると見られているような状況では、財政支援が必要といっても、世間の理解が得られない。従って、「大学は、教育の質の改善に向けて取り組むしかない、教育改革に向けて努力している。私どもの大学は、小さな大学ではあるが、その場から退場するわけにはいかない。ここに、FDに真剣に取り組む一つの理由がある。

環境の変化に適応しているか？

わが国の大学は、多様な学生の



増加によって、大学で学ぶための必要な基礎学力が不十分な学生や大学で学ぶ明確な目的を持たない学生への対応に迫られている。一方では、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」で示されているように、学生が卒業するまでに身につけるべき「学士力」を保証するための教育の改革が求められている。環境の変化に対応できなければ、世界のGM(ジェネラルモーターズ)でさえ、崖っぷちから転げ落ちる時代である。

われわれを取り巻く環境は、視界ゼロと言われているように、依然として厳しいが、ICTを活用することによって教育効果を高めながら教育改革に努力していくべき

と考えている。例えば、米国の大学では、授業料収入の四%から八%をICTに投資することで教育効果を高めている。本学でも、先の現代GPで開発したPOIPEでは、ICTの教育効果を検証し、一部の科目ではあるが正規授業で活用している。FD活動においても、本学の強みであるICTを活用しながら教育の質を向上させるためのPDCAサイクルを組織的に行っていくことが重要である。そのためには、ICTを活用して教育の質を高めるためのFD支援システム(CANVAS)の開発と併せて、現在進めているカリキュラムの見直し、GPA制度、チュータ制度、OWN Teacher制度などの導入、学生による授業評価アンケート、ピアレビュー、外部アドバイザーによるレビューなどの総合的な評価システム、そして、学習支援センターの実質化など新しい組織の確立といった、先進的な情報システム、新しいビジネスモデル、そして新しい組織の確立によって、この危機を次への発展のチャンスと捉えるようではありませんか。ここに、FDに取り組む二つ目の理由がある。

そして、教職員が一丸となって取り組んだFDの成果は、学生に還元されることになる。従来よりも、より分かりやすく、より楽しく、しつかり学べるような学習環境を構築することで、学生が主体的に学ぶようになることが求められている。そして、その環境には、教職員と学生の面談をベースとしたコミュニケーションが必要であり、学生の人格を尊重し、「大切に育てる」という気持ちを根底に持ちながら、しつかり指導することが求められている。ここに、FDに取り組む三つ目の理由がある。

全学的に取り組む教育GPPプロジェクト

現在、教育GPPプロジェクトでは、十個のワーキンググループに約六割の教員と、職員、そしてシステム開発では学生も加わるといふ全学的な体制で行われている。毎月の定例会議として、FD委員会と各ワーキンググループのリーダーから構成されるFD推進連絡会議が行われることでFD活動の情報共有が図られている。

さらに、平成21年9月には、カ

リキュラム・アドバイザーボード会議を実施し、経営・情報・医療・メディア・教養の各分野の主に企業の専門家である外部アドバイザーと共に、本学のカリキュラムの見直しを進めている。FD研修会では、「初年次教育の取り組み」に関して他大学から三人の講師をお招きし、先進的な事例を通して有益な知見を得た。また、ワーキンググループのメンバーが他大学を訪問し調査を行っている。FD先進国である米国の大学にも、四名の教員が訪問し、有益な調査を行った。

平成21年10月には、教育GPP推進協議会(写真)を開催し、三名の学外の評価委員から本学のFD活動に関する適切なアドバイスを得ることができた。そして、米国デンバー市で開催されたEDUCALISE 2009には、三名(教員とメディア教育センター職員)が参加し、米国の大学におけるICT活用の最新事情把握の機会を得た。

このように、本学のFD活動は、平成20年4月以降、FD委員会を推進母体として教職員および学外の委員等の協力を得ながら全学的に取り組んでいる。



名誉教授称号 授与式を行う

平成21年10月26日(月)、
北海道情報大学名誉教授
称号授与規程に基づき、
本学初となる名誉教授の
称号授与式が、学長室に
おいて行われました。

— 教育研究評議会委員立
ち会いのもと、長谷川学
長から井野智氏(元情報
メディア学科教授)ならび
に外山清高氏(元システ
ム情報学科教授)へ称号が
授与され、最後に長谷川
学長より、長年にわたつ
て本学に多大なる御尽力
されたことへの感謝の辞
がのべられました。

(総務課)



北海道情報大学が第1回高大連携協議会開催 (全国大会)

北海道情報大学 高大連携協議会



本学の高大連携授業は、当初本学内で行われている授業に高校生徒に参加し、主に近隣の北海道野幌高等学校、北海道札幌東商業高等学校との連携授業が平成17年から開始した。さらに昨年からは、全国的には非常にめずらしいe-Learning 授業を活用し遠隔地間の高大連携授業が開始され、北海道内では北海道釧路明輝高等学校、北海道外では、東京都立東村山高等学校、東京都立久留米西高等学校、東京都立富士森高等学校、東京都立淵江高等学校へと高大連携授業が広がってきた。

これらを踏まえ平成21年8月3日に第一回高大連携協議会が本学において開催された。

高大連携協議会では、各高等学校から高大連携授業の発表や協議が行われた。

取り組み状況では、高校内では出来ない実習環境や高度なソフトウェアを活用した授業をとおして高校では体験できない授業を経験することができたこと、*φ* Learningを活用した授業では遠隔地間の高大連携授業が可能であり、生徒を飽きさせず学習効果を上げる工夫がされている優れたe-Learning 授業をさらに高校の授業の中に活用したいとの発表があった。

現状の課題では、高校の担当教員が学習履歴を確認出来るようにしてほしいなどの課題が出された。今後の展望では、情報教育さらに進展させる上で ϕ -

Learning授業は大きな可能性を持っていることへの期待や本学が行っているe-Learningでの教員免許更新への積極的な取り組みへの期待が表明された。



『着任のごあいさつ』

経営情報学部
システム情報学科

教授 澤井 秀

9月1日に着任した時には学内の木々は青々として、梢を渡る爽やかな風に揺られた木の葉のさらさらという涼しげな音色が耳に心地よく響きました。それから二カ月半ほどが経って、梢にわずかに残る葉も、風が息を吹きかけるたびにはらはらと散ってしまつて、もはやほとんどなくなつてしまいました。何日か前に、朝起きて窓のカーテンを開けると、家々の屋根や駐車場の車たちが雪で薄っすらと白くなつているのが見えて、あゝもうすぐ冬將軍がやってくるんだなということを感じさせられたような気がしました。

北海道にはちようど三十年前に一年間ほど住んだことがあります。それもここからあまり遠くない大麻でした。2月の半ばに借家の前に初めて立った時には、玄関のドアまで上る階段も何もかも雪に埋もれていて、家の中に入るのも大変だったことが記憶に鮮やかに残っています。そこに住んでみれば、ナント快適！家の中にはストーブを焚きっぱなしで、東京郊外の実家よりも暖かく、外に出るときには重装備すればさほど寒さが身にこたえることもなく、その寒さも大量の雪も関東人にとってはもの珍しくて、むしろ心が浮き浮きするほどでした。この冬も、もうしばらくすれば、いやというほどの雪がまた降ってくるのでしようが、そうしたらまた三十年前のように、窓の外に明かりを点けて、雪見酒を楽しもうと待ちわびています。

本学では、ロボットソフトウェアを軸足にして、学生の教育と研究に当たります。元々は電子工学科を出た電気屋で、民間企業の新入社員当時はラジオの設計を担当しました。当時はまだICは出始めの頃であり使われておらず、チューナー、ミキサ、IFアンプ、検波段、オーディオアンプのすべての回路をほとんどディスクリートのトランジスタで設計したものでした。自分が設計したラジオが発売日に東京銀座のショールームに並んだのを見たときは、なんとも晴れがましい気分だったことを覚えています。そのハード設計の傍ら、メインフレームのコンピュータをTSSで使つて、チューナー部の自動設計のソフトや発振回路の解

析のソフトを作つたりなどしてCADの世界に入り、ソフトウェア(アプリケーション)を専門とするようになりました。

ロボットの開発に従事したのはそれからしばらくしてからです。このロボット開発で用いたリアルタイムOSはC言語で書かれていましたが、ソースで購入したので、週一回残業時間に皆でソースプログラムの輪読をやりました。CADの時もそうでしたが、ソフトウェアはソースを読んで理解するというのが、時間はかかりませんが身につけるには一番ではないかと思えます。

ロボットはメカトロニクスの広範な技術を集めて出来るわけ、ソフト屋といえどもソフトの世界だけにとどまってはおられず、ある程度はメカや電気の知識も必要になりますが、ロボットの面白さは何と言つても、自分の作ったソフトで現物のメカが動くということではないでしょうか。実際に思い通り動くと、実に感動するものです。

さて、昨年、読売新聞が連載した「教育ルネッサンス」の「大学の實力 ―学士力―」と「大学の實力 ―授業を変える―」を読み、今、日本の大学が直面している厳しい現実と、それを乗り越えるための並々ならぬ努力や工夫についての一端を知りましたが、本学に着任してからはそれが他人ごとではなくなつてしまつたわけで、ずっしりとした重みを両肩に感じています。常に気持ちを引き締めて教育に当たる所存です。

一方で、研究もおろそかにはできません。教育と研究は当然のことながら両立して進めていかなければならないので、とにかく走りながらいろいろ模索しようと思つています。



今年9月より教職課程担当教員として着任しました中村正巳（なむらまさみ）です。北海道には約二十数年前、全道一周旅行をして以来憧れの土地でした。その雄大な自然に心を奪われたからです。以後、二、三年に一度は訪れ、道北の礼文島、道東の知床半島、阿寒・摩周湖が印象深く、全身から感動しました。特に、オンネットという小さな湖の色合いの美しさには言葉が忘れませんでした。本学には、5月中旬、快晴の日に、採用試験で初めて参りました。試験の緊張感の中、広々きれいなキャンパスや緑の芝生の美しさ、また、土曜日とあつてか、その静寂な雰囲気非常に心地よい気分を味わいました。都会の雑踏の中で暮らしていたものですから、心が洗われたひと時でした。赴任して数カ月ですが、本学周辺には温泉も数多く、食べ物も新鮮で非常に快適な生活をしています。

着任にあたって、私の半生、研究分野・担当科目及び今後の抱負という三つのテーマでお話ししたいと思います。第一に、私の略歴です。1956年栃木県足利市生まれ、大学時代はスピードスケートにあぐれ、全国国公立大学選手権大会の男子五百mで上位入賞も経験できました。専攻の社会科以外にも保健体育の免許も取るほど体育会系の生活をしていました。1980年、社会科、保健体育担当の栃木県公立中学校教員に採用され、以後十年間、荒れた学校現場で、ドラマの金八先生のようにガムシヤラに生徒とかかわりながら、生徒から多くのことを学び、学校教師の存在の大きさについて考えさせられました。三十代になり、公務員を退職してまでも、大学院で学校教師の在り方を意欲的に深く研究しました。四十代になり、大学院博士課程での成果を生かしながら2001年から、埼玉県所沢市にある秋草学園短期大学地域保育学科という女子短大で、幼児教育者の養成を担当しました。同時に、栃木県立高校やさいたま市立中学校でスクールカウンセラーとして、学校不適応の生徒や教職員の支援もしてきました。第二に、主な研究分野は二つです。①教育哲学（教育思想）です。主なテーマは約百年前、大正時代における「新教育運動」（児童中

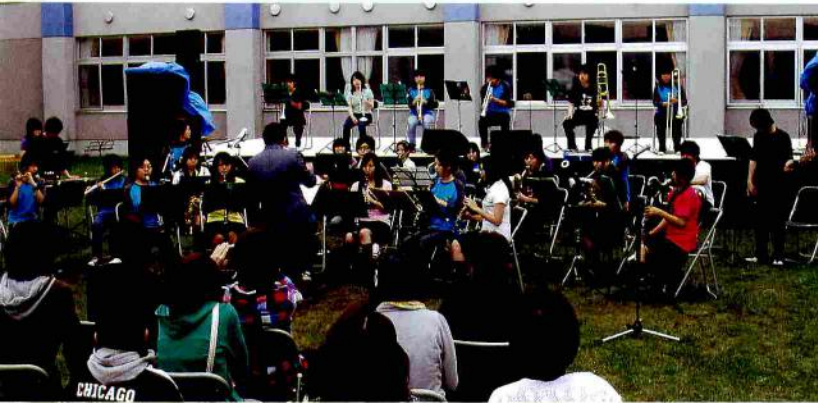
心主義）、特に、澤柳政太郎の教師思想について考究しています。②教育カウンセリング学です。学校不適応の予防のための「集団カウンセリング」を研究し、「構成的グループエンカウター」の心理技法を開発しながら実践研究を展開しています。本学では、教職課程の「教職概論」「教育原理」「教育総合演習」「教育実習」などを担当しています。第三に、今後の抱負です。今後の研究目標として、二点あります。①本来の教師のあるべき姿や未来に求められる教師像について、児童中心主義の視点から教育哲学的な研究を考えています。②不登校やいじめなど学校不適応の問題の改善を図る予防的・開発的なカウンセリング分野の研究を進め、その手段として有効な構成的グループエンカウターの実践研究を考えています。以上の研究成果をもとに、本学や地域への社会貢献を三点考えています。学校教育や心理臨床の専門家として、①困っている学生の個別相談などの支援。②地域の悩んでいる学校教師や生徒や父母、市民のために、グループカウンセリングなどの予防・啓発的な公開講座などの企画・運営。③スクールカウンセラーや教員免許更新制の講師として地域の教育行政支援。最後に、学生の皆さんにメッセージです。本学では、情報関連の仕事を目指している方が多いと思います。IT、経営などに関連する最先端の資格も取れるからです。カリキュラム履修も厳しいからこそITや先端経営などの専門家として認められるのです。そのような環境の中、さらに、教職科目を履修し、教員免許を取得するのは厳しい道ですが、教職の分野でその能力を生かし、高校生にIT、経営、情報メディアを伝える面白さも考えてみませんか。学生の皆さんに教職の面白さや魅力を伝えるのが私の本学での役割と考えています。IT分野に秀でた学生のみならず一人でも多く、最先端学問を身につけて、「情報」「数学」「商業」の高校教員を目指してほしいを思います。学生の皆さん、教職課程の履修も考えてみませんか。学生や教職員の皆さん、気軽に通信教育棟二階、851研究室に訪ねてきてください。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

教職課程へようこそ

経営情報学部
システム情報学科

教授 中村 正巳

本学の大学祭の名称である「蒼天祭」はネーミングがユニークですし、サ行の音で始まる音列のさわやかな響きも相まって、本当に良い名前だと思います。私は「蒼天祭」と聞くと、同じ文字で始まる「蒼穹（そうきゅう＝青空）」という言葉をいつも思い出して、「蒼い」という文字の詩的な響きにうっとりします。「青い」春の真只中にある学生諸君が、「蒼い」天の下で伸び伸びと秋の空気を呼吸する——そんなイメージは、豊かな大自然がキャンパスを取り囲む本学にまことにふさわしいといえます。そして、そのイメージに違わず、10月3日（土）、4日（日）



にわたって行われた第21回蒼天祭もさわやかで活気あふれるものでした。

まず、学生にとって年間最大の行事を盛り上げるべく準備に長い時間と多大なエネルギーを注いだ学生実行委員の皆さんに対し、学生部長として心から感謝申し上げます。思います。今年度は蒼天祭の前日午後が一斉休講とされなかつたため、昨年度に比べ作業効率の低下が心配されました。それでも、準備作業を支援するため教室を移動して対応して下さった教員もおり、そのおかげで一定の作業効率が確保されたようです。深夜まで準備作業に追われた前日だけでなく、蒼天祭終了後も後片付けのため長時間の作業をされた実行委員の皆さん、本当にご苦労さまでした。

そして、多彩なステージ発表を展開した各種サークルの皆

第21回 蒼天祭を終えて

学生部長 三浦 洋

さん、ゼミ展示を準備した学生諸君、そして魅力的なメニューの模擬店を開いた皆さんに対してもお礼を申し上げます。あなた方が見せてくれた勉強の成果や創作活動の作品、渾身のステージ演奏、出来立てのおいしい食べ物（私が食べたスूपカリーは美味でしたよ!!）、なにより、あなた方が示したフアイトは素晴らしいものでした。わずかの時間、小雨に見舞われはしたものの、曇天を蒼天に変えてしまうようなバイタリティーがキャンパスにみなぎっていたと思います。

また、さまざまな面で支援してくださった教職員の皆さん、本学を訪れてくださった地域の皆さんにも厚く感謝申し上げます。今年も力のこもった「よさこい大乱舞」を披露してください。また、「江別まつことええ&北海道情報大学」の皆さんには、あらためて大きな拍手を送りたいと思います。さすがは入賞歴を重ねているチームです。本当に見ているだけで胸の躍る、

エキサイティングな演舞でした。恒例のSohten Liveのほうも、影山ヒロノブ・遠藤正明のステージで大いに沸いていました。新型インフルエンザが流行したため、いくぶんか開催が心配された時期もありましたが、その心配を吹き飛ばすライブでした。

加えて、吹奏楽部の顧問を務めている私にはとくに嬉しいことがあります。本学の吹奏楽部のメンバー十有志学生の十五人が、野幌高校吹奏楽部の二十人と合同で華やかなアンサンブルを繰り広げたのです。写真に見られるように、ウインド&ブラス・オーケストラさながらで、大変ノリの良いジョイント演奏でした。本番を迎えるまでの練習は大変だったと想像しますが、大成功を収めました。こうして蒼天祭を振り返ると、学園祭というのは大学の総合力が出てくる場だと思えます。大いに文化的なマグマを貯めて、来年も蒼天祭という活火山でエネルギーの炎を吹き上げましょう!!



私は、仕入れから販売まですべてのことに携わりましたが、とても大変でした。計画しているときは楽しみで仕方ありませんでしたが、チームのトップに立つというプレッシャー、提供する品物が本場に売れるかどうか、そしてなによりも仲間の皆を指示して引っ張っていけるだろうかということが不安でした。

初日は残念ながら売上ももう一つで、連携もあまりうまくいきませんでした。二日目はうまくみんなを指示してやっていけたと思います。売上もとても多く、「出店してよかった」と思いました。チームのみんなも「楽しくできてよかった」、「大学生活の思い出になった」とか言ってくれたので、うれしかったです。

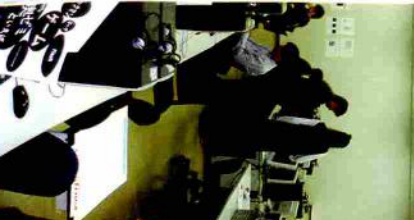
それから、調理しているときに「おいしそう」とか、「なんでこのポリュー

蒼天祭で模擬店を出店して

先端経営学科 1年 佐藤 雄太

「昨日買っておいしかったからまた来たよ」などと言っていたときは、仕入れとか計画など「がんばって本場に良かったな」と思いました。そして何よりも驚いたことは、「ガチンコ広島風お好み焼き」というネーミングに惹かれるお客様が多かったことです。先端経営学科の学生として、お店はネーミングも重要であることを身をもって学習し、更には人の温かさに気づいた蒼天祭でした。お店で買っていただいた皆様に、この場を借りてお礼を申し上げます。どうもありがとうございます。

最後になりましたが、収益金の一部を、北海道新聞の社会福祉振興基金に寄付させていただきましたことを付け加えます(10月14日朝刊二十五面の札幌圏で紹介されました)。





「シラバス掲載図書」を整備しました。

図書館では、学生の授業支援のためシラバス(講義概要)の各科目に示されている教科書・参考書を網羅的に収集・整備することとしました。現在、所蔵の無い図書の購入を急いでいます。今年度以降、毎年度のシラバスに対応した教科書・参考書を整備していく予定です。日常の自学自習、授業に役立てることを期待します。



CiNii(サイニィ) NII(国立情報学研究所)論文情報データ ベースの定額許諾機関登録をしました。



この度、懸案であったNII(国立情報学研究所)の論文情報ナビゲータCiNii(サイニィ)<http://ci.nii.ac.jp/> について、定額許諾機関として12月1日に機関登録が完了いたしました。これにより、電子情報通信学会、日本機械学会など各種学会誌および学術機関誌423誌の「定額許諾」論文が学内端末より24時間何時でも利用出来るように整備されました。学内教員の研究活動はもとより、大学院生、学部学生の卒業研究論文、レポート作成など日常の自学・自習活動に大きく寄与するものと期待されます。

知識探索サイト ジャパンナレッジ クラシック

JapanKnowledge Classic 利用講習会を開催しました。

学生のレポート作成、卒業研究論文作成に欠かせない情報リテラシーの向上を図ることを目的に、本年10月に導入したジャパンナレッジ クラシックの利用講習会を11月26日、閲覧室のノートパソコン15台を用いて実施しました。当日は、ベンダーである(株)ネットアドバンスのインストラクターにより、課題例を用いて同データベースを使ったレポート作成の手順、インターネットサイトを利用する際の注意事項、コピー&ペースト時の引用元明記の仕方など、学生のレポート作成に欠かせない基本的な情報リテラシーについて、分かりやすく丁寧に説明され、教員からは「ビギナーズセミナーで是非利用したい」などの声も上がり、参加した10数名の学生、教員に大変好評でした。この種の講習会は図書館創設以来初めての試みでもあり、開催日程、場所等に多少の課題も残りましたが、図書館では今後も、テーマを絞った同様の講習会を開催していく予定です。



楽しく熱気に溢れた学内囲碁大会

顧問 石井 勝



優勝カップ授与

大会は、まず、主催する囲碁部の小林達也部長（二年生）が「大学の囲碁愛好の先生方と私たち学生とが一堂に会し、棋力を確かめ・高めあい、交流を深める機会としたい。ルールを守り楽しい大会としましょう。」と挨拶、つづいて、前回優勝の竹内典彦二段（教員）からの優勝カップ返還とレプリカ贈呈を行い、さっそく熱戦が繰り広げられた。

第六回学内囲碁大会は例年通り盛会であった。10月28日（水）・11月4日（水）の両日放課後、一一一教室で、学生十五名・教職員五名の参加で熱の入った対局が行われた。

大会は、まず、主催する囲碁部の小林達也部長（二年生）が「大学の囲碁愛好の先生方と私たち学生とが一堂に会し、棋力を確かめ・高めあい、交流を深める機会としたい。ルールを守り楽しい大会としましょう。」と挨拶、つづいて、前回優勝の竹内典彦二段（教員）からの優勝カップ返還とレプリカ贈呈を行い、さっそく熱戦が繰り広げられた。

一人が二日間各二局打ち、優勝カップ争奪を行った。部員以外の学生が二名参加したのもうれいことであった。この優勝カップには、現在まで六名の優勝者の名前が記されている。今回の優勝者は学生サポートセンター事務室長の田中正喜五段であり、その名がまた優勝カップに記される。

学生で準優勝の杉山慧太一級と加藤巧四級（共に一年生）はそれぞれ「大きな作戦を立てたが高段者には通用しなかった。」「もっと勉強して卒業までには優勝したい。」と悔しさと力の限界を尽した満足感をもって話していた。

ここで、囲碁部の日頃の学内活動について触れておきたい。部則には、活動目的として、「一、大學生活で仲間とともに生涯熱中できるゲームである囲碁を楽しむ。二、囲碁を通して多くの仲間を作る。三、囲碁を通して様々な発見をし、向上心を養う。四、囲碁を通して社会マナーを身に付ける。」と示してある。この目的のもと、毎週水曜日と金曜日の放課後に定例の対局日を始め、毎日の昼休みには適宜対局を楽しんでいる。蒼天祭において、四年生は出店（炭火小僧）を開き、好評であった。一・二・三年生は「囲碁教室」を開催し、地域の人たちとの交流を深めた。「囲碁教室」では、イベントに参加し「囲碁に興味があるので」と来室された婦人は仲間の方が迎えに来る



対局の様子

も多く来室し、部員との対局や詰め碁などの囲碁学習を楽しんでいた。昨年卒業した東山勇人元部長が東京から駆けつけてくれたのはとてもうれしかった。こうした活動から部員たちは囲碁の持つ魅力の一つ、囲碁を通して多くの人たちと交流できる・学び合う楽しさを感じていた。

今回の囲碁大会は、成績発表、優勝カップと各賞品の授与、小林部長の「参加いただいた教職員の皆様ありがとうございました。学生の皆さんさらに棋力を向上させて次回もまた楽しい大会にしましょう。」との挨拶で閉会した。部員全員で碁石と碁盤を部室へ運び、早や次回の対局に思いを馳せていた。

蒼天祭囲碁教室



中国語学研修の感想

システム情報学科 1年 工藤 祐基

僕が中国で一番驚いたのは中国の車の多さです。中国のイメージでは、ほとんどの人の移動手段は自転車、長距離の移動にはバスや電車などの公共機関を使うというイメージがありました。しかし、実際にはもちろん自転車も日本とは比べ物にならないほどたくさん走っているのですが、車と自転車の比率が車の方が圧倒的に多く日本の台数よりも中国の台数の方が多いように感じました。また中国に走っている車のほとんどは日本やアメリカ等の外国産の排気量の多い高級車が多く、日本のような環境に順応したハイブリットカーというものはほとんど走っていませんでした。さらに中国のビルの多くには派手な電装があり、最初は中国人の人は省エネにそれほどに感心がないのだという印象を受けました。

しかし、実際には中国で車を買う場合の価格は日本で買う価格とほぼ変わらず、そのため車を買うこと自体がとても大変なことなのです。

中国の物価は一般的に安いと思われがちです。たしかに日本の物価と中国の物価を比べると中国の物価はとても安いものになります。しかし、中国人の収入との比率を見てみると中国の物価はとても高いものになります。しかし、中国の貧富の格差はとても大きいので、裕福な人もいれば、貧乏な人もたくさんいました。そ

海外事情に参加して

システム情報学科 2年 澤村 香澄

今回、中国短期留学に参加理由は、中国にとっても関心があったからです。語学の勉強を一年もしていない中で行った留学は、言葉の

のためスーパーに買い物に行くと同じものでも安いものや高いものが極端に混在しており、また高級品だけを扱うデパートもいくつもありましたが、店内に客はほとんどいませんでした。また、中国の食事は日本と違い、意外にあっさりしているものもありました。また、中国では食事のときに水ではなく、お茶を飲みます。中国のお茶は様々な役割をもつものがあり、主に消化を助けたり、食欲を出したりくれるものなどがありました。中国人の友達も何人かできたので、また機会があれば中国に行きたいです。

壁をものすごく感じました。中国へ到着してから最初に覚えたのは、「会計」という単語です。初めての夕食の時に言ってみようという



南京市内にて

ことになり、私が言うことになりました。一言話すだけなのにとても緊張しましたが、きちんと通じたことがとても嬉しかったです。

南京大学での勉強は、ついでいける程度の講義でしたが、イギリスからの留学生と一緒に受けたこともあり、英語に苦労しました。なぜなら、中国語の意味などの説明を英語で説明するためです。まさか中国にきて、英語に困ることになるとは思っていなかったので、きちんと勉強しておけば良かったと後悔しました。けれど、イギリスからの留学生の人たちは言葉が通じなくても簡単な挨拶をしてくれました。一緒に課題をしたときは、言葉が通じなくても少しくらいなら通じるんだと思いました。

講義担当の先生は二人でしたが、英語が通じなくても中国語でなんとか会話をしていました。数年間勉強した英語よりも中国語が通じた時は、少し複雑な気持ちでしたが嬉しかったです。

留学に行く前は、日本にいるのだから外国語を真面目に勉強しなくてもいいと思っていました。ですが、中国に来て、英語や中国語を学ぶ大切さがよくわかりました。

休日には、様々な場所へ行きました。唯一、一人で出掛けていったのが獅子橋という所で、夕方になると縁日のようにお店が並び、

夏期中国語研修を引率して

システム情報学科 教授 玉置 重俊

大きな書店で辞典と気になった本を買いました。訳を見なくても本が読めるようになるうと思つたからです。今回の海外事情に参加して本当に良かったです。日本にいたままだと体験できないことがほとんどで、外国語を勉強するということがこんなにも大変で大切なことだとは思いませんでした。

今回の夏期中国語研修は、新型インフルエンザの大流行という逆風もあったが、それでも本学から四名の学生が参加し、何とか実施できた。期間は、8月12日から9月6日までの二十六日間、前半の期間は、田中先生が引率を担当し、私は後半を担当した。今年は、参加学生が少なかったため、日程も短縮し、内容も最初に三日間の北京観光を行い、その後、南京で三週間の中国語研修を終えて、上

海からの帰国となった。また中国語研修も、英国のマンチェスター大学との合同授業となり、学生たちは中国語と英語で毎日鍛えられた。ただ学生たちは、中国で多様な異文化に触れ、言葉を修得する厳しさも経験して、各自の視野を広げ、かつ国際感覚も高めたようだ。これらの貴重な体験が、彼らの成長の契機や自信になれば、引率者として望外の幸せである。

アメリカに行つて感じたこと

大森 美香

私がこの留学を決めた理由として、竹内先生の勧めがありました。

もともと海外への関心はありましたが、まさか行くとは思いませんでした。

短期留学の説明会に出席したとき、シアトルはご飯がおいしくて治安もよく、日本人に親しみやすいと聞いたので、行きたい気持ちが高まりました。しかし、お金の問題や、海外での慣れない生活に順応していいのか不安になりました。そんなとき、竹内先生が是非

行つたほうがいいと勧めたので、私は両親に相談し、承諾を得て、行く決意をしました。

シアトル・タコマ国際空港に着いてから、JMWの教職員の方たちに会いました。とてもフレンドリな方たちで、睡魔と緊張でコミュニケーションがとりづらかった私に声をかけてくれたので、私はすぐ打ち解けることができました。

シアトルに着いてまず驚いたのはフリーウェイ（高速道路）の車線が多かったです。日本では片側二車線、もし

くは片側三車線ですが、アメリカは片側四車線は当たり前で、多いところでは片側だけで八車線のところもあります。アメリカの広大な大地を実感した瞬間でした。

交通量もとても多く、しかも、GMやFORDといった大型の普通乗用車を一人で運転してました。そして、通勤列車のよなものが存在しませんでした。私がホームステイしたところは、シアトルの郊外にあり、シアトルに行くにはフリーウェイをとって自家用車で行くか、バスしかありません。メ

トロバスと言いますが、このメトロ

バスはシアトルの中心街にある地下鉄の中にそのままはいれてしまうのです。私が思っていた地下鉄とまったく違っていて驚きました。トンネルも巨大で、柵もありませんでした。バスについて、とても驚いたことがあります。日本では通常「次は〇〇に停まります」と電光掲示板に表示しますが、アメリカにはありません。停まる場所が分からない場合は、運転手さんに直接聞くか、周りの人に聞くしかありません。そして、時間



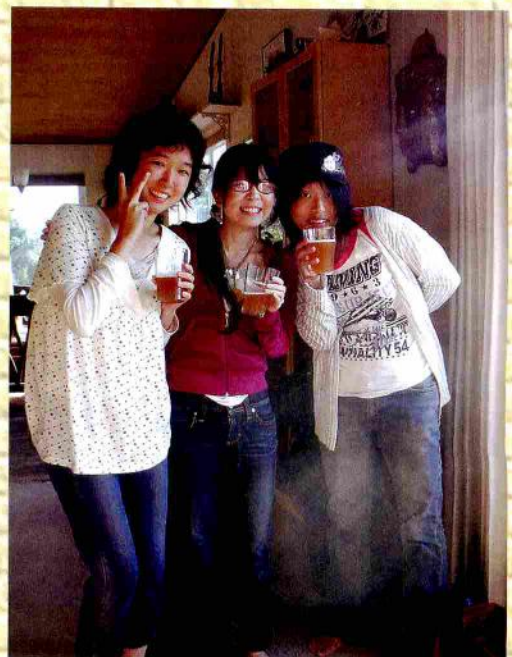


通りに来ることはなく、私は最高で四十分待たされませんでした。しかし、アメリカの人は、人とのコミュニケーションをとることをとても重視しています。私も、バスで四十分待たされたとき、後から来た人と少し会話をしました。そして、時間に追われてない感じがとても居心地よかったです。日本はもう少し、時間にたいして余裕のある生活をするべきだと思いました。

Costco(コストコ)の中に、軽食がとれるお店があるのですが、そこで買ったピザ(日本ではLサイズより大きいぐらいの大きさ)が十ドル≒千円ほどで買えました。一切れ食べただけでも満腹しました。日本だと、この値段で買えることはないのです、とてもお得で満足しました。量が多いので、一緒に行った友達と分け合っただけです。飲み物も、XLサイズというものがあります。これは、Lサイズの1.5倍以上あったと思います。Lサイズといっても、日本のLサイズはアメリカだとMサイズぐらいなので、XLサイズを初めて見たとき衝撃でした。日本でいうSサイズはアメリカにはほとんどありません。あつたとしても、キッズミール(お子様セット)にしかつきません。夕

食も、ファーストフードがあたりまえのように出てきます。ご飯と麺類が好きな私にとつて少しきつかったです。

話は変わりますが、アメリカの人は、初対面の人でも気軽に声をかけてくれます。積極的に話に入ろうとすればするほど彼らは喜びます。私は、日本にいるときは英会話をする機会がほとんどなかったのですが、アメリカに行くこと、不思議と会話のできたのです。集中して人の話を聞けるようになり、本を出発する前より、かな



り聞き取れるようになりました。自分の意思を伝えるのは今でも苦手ですが、前よりも克服できました。下手な説明でも、一生懸命自分の意思を伝えることが大事だということを勉強しました。習うより慣れる、私はこの言葉が大好きです。

このプログラムは、私にとって大きな経験でした。自分や、日本を見つめなおすいい機会でした。日本のよさを再発見し、客観的に日本の国をみることでできました。私を成長させてくれたアメリカに感謝！そして、大好きな日本！

by Simon

STUDYING in Seattle

On August 9th, 8 students and Charlie Sensei left Japan for Seattle. We were going to Lake Washington Technical College to study English.



When we arrived, we met Herman (big guy on the right) and Sue (nice lady on the left)



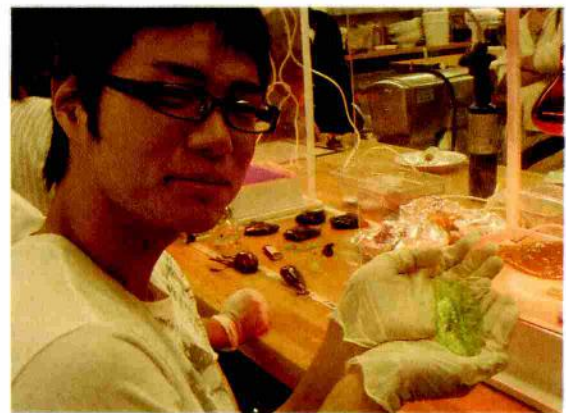
Most days, we studied English in the morning and had some special class in the afternoon.



Our teacher's name was Jana. She is a very good teacher. Ten years ago, she worked in South Korea.



The special classes were very interesting. We studied many things, including Harley Davidson maintenance, sugar art and network security. We had a good time.



Sugar art is cool. Flowers and leaves are easy to make. And you can eat them too!



There was also a cool student lounge. There were many comfortable chairs and sofas. After class, we could relax and sleep there.

STAYING in Seattle



We stayed in a hotel for the first few days. After that, we went to our home-stay families.



All of the home stay families were very good. We had nice bedrooms.



We had a wonderful time at our home-stays. We saw many interesting things and have many wonderful memories. We spoke English everyday with our family members. It was tough but we had a great time.

SIGHTSEEING in Seattle

Seattle is a beautiful port city. It is famous for the Space Needle, Microsoft, Boeing and the Mariners baseball team.



This is a view of downtown Seattle.



You can see the space needle here. It is over 605 feet (184 meters) tall. The view from the top is fantastic.



This is the space needle from the bottom. It is about 50 meters higher than the Sapporo TV tower!

SIGHTSEEING in Seattle



We went to Microsoft. There were lots of buildings there. It is much bigger than Hokkaido University's campus. People from many countries work for Microsoft in Seattle.



We went to see the Mariners at Safeco Field. We were looking forward to seeing Ichiro, but he didn't play. He had an injury. We watched Johjima instead. Anyway, the Mariners won!!



We also went to Boeing. The Boeing factory is the biggest factory in the world. We walked over 2 kilometers inside the Boeing factories.



The team store had many great souvenirs. The most popular item was Ichiro's number 51 shirt. Mariners' goods are not cheap.



The best way to get around Seattle is on the city bus. You can even take your mountain bike!



We had a great time at the Seattle Public Market. It was very exciting. The Pike Place Fish Market was also fun. The workers throw big fish to each other!

FOOD & DRINK in Seattle



Eating in Seattle is wonderful! This is the first Starbucks in the world. It is in the Pike Place Market. The Starbucks logo is brown, not green!



Teriyaki is very popular in Seattle. The taste is not really Japanese, but the food was good. Also, most fast food was very cheap.



We went to Uwajimaya. Uwajimaya is a Japanese goods shop. You can buy most Japanese food there, but it's a little expensive.



A popular snack at the baseball game is popcorn. This large bag was about 400 yen. Very tasty.



Have you ever eaten hot marshmallows? Toasted marshmallows taste very good. We ate toasted marshmallows at a BBQ party.



Hamburgers are everywhere in America. They are cheap and tasty, but BIG. They also have many calories, so it is easy to gain weight if you eat too many! Surprisingly, McDonald's hamburgers in the US were the same size as those in Japan!

NATURE in Seattle



We also went for a walk to Mount Rainier. It was summer, but there was much snow. We saw many small animals. The air was very fresh.



A baby grizzly bear? A prairie dog? I don't know!



We went to a beautiful lake called Lake Joy, near Seattle. The lake was a little cold, but we could enjoy swimming, boating and canoeing on the lake.



This is also Mount Rainier. You can see "jet trails" (hikoukigumo) in the sky. More than two million people visit Mount Rainier each year!!



This is a nice little cabin. It is near Lake Joy, Americans call this a "weekender".



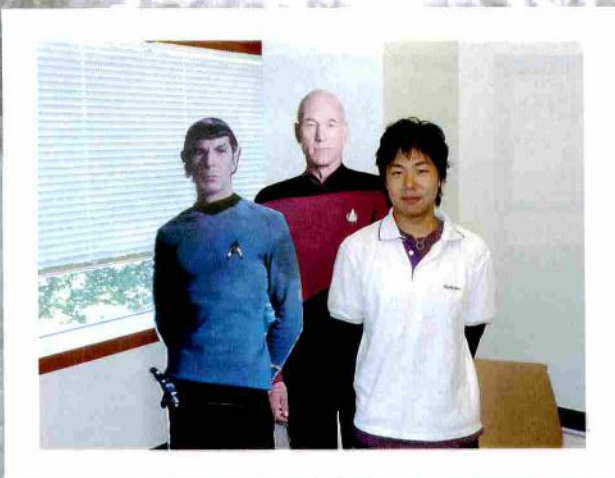
Seattle is located near the sea, lakes, rivers, forests and mountains. Because of this, sailing, skiing, bicycling, camping and hiking are all very popular. If you like outdoor sports, Seattle is a great place to live!

ENJOYING Seattle

We had a great time at LWTC (Lake Washington Technical College). Although we only stayed three weeks, we learned a lot of things, improved our English, did a lot of sightseeing and had a great time!



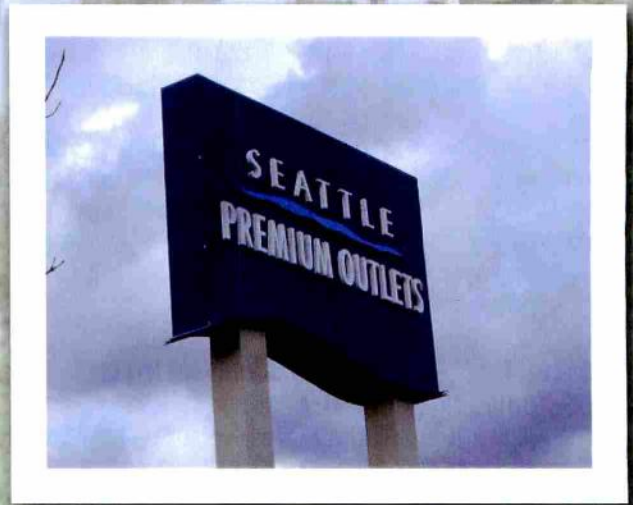
We got English certificates from LWTC. They are very cool!



We met some famous aliens! Do you know Spock? (He's the guy on the left!)



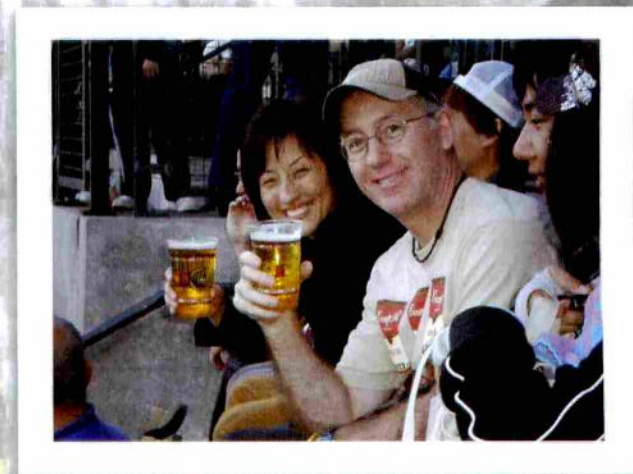
We had a great time at Lake Joy!



We did a lot of shopping at the Seattle Outlets. Everything was very cheap! If you go there, bring lots of money! Better than RERA!



We did lots of walking in the Seattle forests. The weather was great and the air was fresh! It was very impressive.



And we enjoyed an American baseball game, (and American drinks!). If you want to improve your English, go to Seattle's LWTC next year!

北海道情報大学大学院 経営情報学研究科経営情報学専攻

(修士課程)学生等の

学会発表について

■FIT2009 第8回情報科学技術フォーラム(仙台)■

◎9/2 須藤 一弘 情報処理 修士2年
「メディアの情報遷移を把握するための話題分析アルゴリズムの開発」

■エンタテインメントコンピューティング2009(東京)■

◎9/17 杉澤 愛美 メディア制作論 大学院特別科目等履修生
澤口 彩 メディア制作論 大学院特別科目等履修生
「学生プロジェクトによる実践教育の推進とその成果物を活用した大学PRの検討」
※大学院特別科目等履修生：本学の学部4年次に在学しながら大学院の授業を受講できる制度です。

■情報処理北海道シンポジウム2009(旭川)■

◎10/3 小川 彰規 情報処理 修士2年
「ガボールフィルタの設計とパラメータの特性に関する研究」
◎10/3 井上 喬視 ネットワーク技術 修士2年
「トラフィックデータの保存に特化したファイルシステムの提案」
◎10/3 須藤 一弘 情報処理 修士2年
「メディアの話題遷移分析のためのアルゴリズムの開発」
優秀ポスター賞受賞(=写真)
◎10/3 吉崎 順太 ネットワーク技術 修士2年
「REST型Webサービスを応用したサーバプッシュプロトコルの提案」
◎10/3 丹下 和己 ネットワーク技術 修士2年
「既存システムとの連携が可能な学生向け情報提供システムの提案」
◎10/3 石井 拓郎 メディア制作論 修士1年
「プロジェクト型学習を支援するデジタルポートフォリオの構築 — 評価者の信頼性を考慮したメディア作品推薦方法の検討—」

メディアの情報遷移分析のためのアルゴリズムの開発

須藤 一弘 長尾 光悦 大内 東
北海道情報大学 北海商科大学

メディアと消費行動

メディアの情報
形態素解析(文書の基本情報を取得)
相関ルールマイニング(話題の傾向を分析)
 χ^2 値の検出(文書の詳細部を分析)
ケンドールの順位相関係数(話題の変化を抽出)

提案アルゴリズムの概要

文書の傾向・特徴から遷移度合いを定量化

アルゴリズムの適用と検証

能登半島地震 新潟県中越沖地震

適用事例
地震災害におけるメディアの情報
能登半島地震 新潟県中越沖地震
(2007年3月25日発生)(2007年7月16日発生)
収集媒体：ネットニュース
分析期間：発生から2ヶ月間
検定する値
適用結果と分類結果の
時期がほぼ一致 → 話題の遷移を適切に抽出できた

今後の課題
アルゴリズムによる遷移の方向性(良い or 悪い)の抽出



情報処理北海道シンポジウム2009 優秀ポスター賞

須藤 一弘 殿

あなたが平成21年10月開催の
情報処理北海道シンポジウム2009
において発表した論文
メディアの話題遷移分析のための
アルゴリズムの開発

は、本シンポジウムにおいて優秀ポ
スター賞の授賞にふさわしい優秀な
論文と認められました。
よってここに表彰し本状および
額を贈呈いたします。

平成21年10月3日
情報処理学会北海道支部
支部長 古川 正志

自衛消防訓練を実施

防火管理者 中島 安敬



平成21年9月25日(金)、教職員及び学生による総合的な自衛消防訓練を実施しました。この訓練は、火災などの災害に対して災害の発生を想定し、消防計画に基づき通報、消火及び避難等を速やかに且つ安全に行い、被害を最小限に阻止し、日常における防火意識の向上を図ることを目的に行われました。

平成21年9月25日(金)、教職員及び学生による総合的な自衛消防訓練を実施しました。この訓練は、火災などの災害に対して災害の発生を想定し、消防計画に基づき通報、消火及び避難等を速やかに且つ安全に行い、被害を最小限に阻止し、日常における防火意識の向上を図ることを目的に行われました。

平成21年9月25日(金)、教職員及び学生による総合的な自衛消防訓練を実施しました。この訓練は、火災などの災害に対して災害の発生を想定し、消防計画に基づき通報、消火及び避難等を速やかに且つ安全に行い、被害を最小限に阻止し、日常における防火意識の向上を図ることを目的に行われました。

平成21年9月25日(金)、教職員及び学生による総合的な自衛消防訓練を実施しました。この訓練は、火災などの災害に対して災害の発生を想定し、消防計画に基づき通報、消火及び避難等を速やかに且つ安全に行い、被害を最小限に阻止し、日常における防火意識の向上を図ることを目的に行われました。

平成21年度

北海道情報大学 大学説明会 in 札幌

～IT社会における有為な人材の育成を目指して～



平成21年11月30日(月)京王

プラザホテル札幌で北海道情報大学 大学説明会を実施いたしました。この説明会の目的は、主に道内に本社がある企業、また病院等に対し本学の

教育内容の説明と、学生の研究発表を通して、本学が目指す方向を理解していただくこと、また併せて学生の就職を

お願いすることにあります。説明会は長谷川学長の挨拶に始まり、大学の概況・使命・教育目的等の話しに続き、各

学科から一名を代表して、次の四名の学生が研究発表を行いました。

・経営ネットワーク学科
三年 土田 唯史

『インターンシップ体験』

・システム情報学科
四年 泉 文彦

『業務モデルを用いたデータベース自動生成システムの開発』

・医療情報学科
四年 前田 明

『診療情報管理についてのアンケート分析』

・情報メディア学科
四年 澤口 彩

『eラーニングについて』

説明会の最後として、林経営情報学部長、中岡情報メディア学部長から各学部の紹介を行い、その後懇親会場へと

場所を移し、本学教職員と企業、病院等の方々と情報交換を行い終了いたしました。

今回は会場を出たところで、教育GPに採択された『ICTによる自立的FD推進モデルの構築』や情報メディア学

部の学生による『HUMAN Project』、『Blogによるコミュニティに着目した「えべつ・やきもの」

Webサイトの構築』等を紹介するポスターセッションも行い、多数の方々に研究内容に触れ

ていただくことができました。

参加された企業、病院数は

百八団体、百五十名、参加された方からは、本学は「得意分野を活かした高い就職率を誇っている」、「情報に特化した明確な大学教育が評価でき

る」、「実務即戦力となり得るカリキュラムを感じる」等の

評価をいただきました。また、学生に対しては「専門性が高い学生が豊富で、入社後の業

務適応が早い」、「基本情報技術者以上のレベルの資格、また診療情報管理士、医療情報

技師の資格を取得して欲しい」等貴重な意見をいただくことができました。



キャリアデザインII「卒業生の講話」

先端経営学科 准教授 小西 二郎

二年生向け必修科目の「キャリアデザインI・II」では、前期において、社会の現実(経済状況や雇用情勢、業界のありよう、資格の有効性等)について学ぶことに主眼を置いた授業を行なってきました。そして後期に入ってから、前期に学んだ社会の現実と「自分らしさ」や「やりたいこと」とを突き合わせながら、徐々に自らのキャリアを実際にデザインすることを促す授業を展開しています。

社会人として日々、奮闘し、地歩を築かれつつある先輩は、学生の目からみれば、がんばれば手が届く存在、すなわち自分たちよりはるかに上の段階にいるが、しかしどこかで自分たちと連続している存在と映じます。そうした身近なモデルとなる先輩の話は、学生がキャリアデザインの学習者から実践者へと転換することを促してくれます。「卒業生の講話」を本科目の目玉の一つとして企画・実施している所以です。

11月20日(金)、松尾記念館講堂で行なわれた今年度の「卒業生の講話」では、ともに2006年3月に情

報メディア学部を卒業された小山隆行さんと鈴木(旧姓、中西)未希さんに講演して頂きました。紙幅の関係上、以下、そのポイントについて御紹介することに致します。

株式会社デンソー北海道で車載コンピュータシステムの営業を担当している小山さんは、法人向けの提案型営業の実態を、動画や実際に扱っている商品等を示しながら分かりやすく紹介するとともに、仕事の責任の重さを強調されました。そして、どの企業も、従業員が今の担当業務以外の仕事をどれだけできるか、そのた

めの力量を備えているかという点を重視しているため、そうした業務拡張性が、個々の従業員のキャリア形成の展開可能性を左右することについて自らの経験をもとに述べられました。そして、少しでも業務拡張性が高い人材となるには、まずは、大学時代にその基礎的な力をつけることが必要だとし、「大学時代は死ぬほど勉強してほしい」と大学での勉学の重要性を強調されました。

北洋銀行・野幌中央支店勤務の鈴木さんは、主な担当業務である資産運用の窓口業務の内容とそれを通して経験したことを中心に述べられました。

鈴木さんは、与えられた仕事をこなすだけではやりがいを感じることはできないとし、それ以上の仕事をやり遂げるべく自ら目標を定め、達成できてはじめてやりがいを感じることでできると力説されました。

また、企業人としての一人前の要件として、自分の担当業務を遂行することの他に、職場全体を見渡して、状況に応じて担当以外の仕事を手伝えることができること、そして先輩に仕事を教え引き継ぐことをあげられま

した。鈴木さんは、職場において、仕事を教え、支えている後輩に自分も支えられていることを紹介し、就職したら一緒にがんばっていける人間関係を職場で築いてほしいと学生たちに語りかけました。

そして、先輩へのアドバイスとして、大学時代には、たくさん遊ぶとともに、後々役立つこともあるので、好きなことだけでなく苦手なことも含めて、学べることはほとんどん学ぶことが重要だということ、そして、どんな職業につくかではなく、入社してどういう気持ちで仕事をするかが大事なのだということについて述べられました。

お二人の講演に対して学生からは、「どういう技術を身につけるべきか」、「資格取得を今から行なうのも遅くはないか」、「仕事と結婚の両立は大変ではないか」という質問が出されました。いずれも講演内容に触発されたものであり、学生の関心の高さがうかがえます。

なお、本講演会の実施にあたっては、教務課の皆様いろいろな御尽力頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



保護者との懇談会を実施



平成21年度の保護者との懇談会は、9月12日(土)に3学年生、9月26日(土)に一、二学年生の保護者を対象に本学において実施しました。

三学年生の保護者懇談会では、長谷川学長から挨拶があり、中村就職部長から学生の就職活動について、長井研究科長から大学院について説明があった後各ゼミ担当教員との個別懇談を行いました。また、一、二学年生の保護者懇談会では、学長から挨拶があった後、加藤教養主任から一、二学年生の学生生活について、木田教務課長から教務関係について説明があり、その後各クラス担任教員との個別面談を行いました。

保護者の皆様の関心は、学生の学業と学生生活の現況、卒業後の進路・就職活動などで、熱心に相談等をされておりました。

ご多忙中にもかかわらず大変多くの方々に、かつ遠方からもご出席していただいたことを感謝いたします。



ピアサポートルームを 移設しました

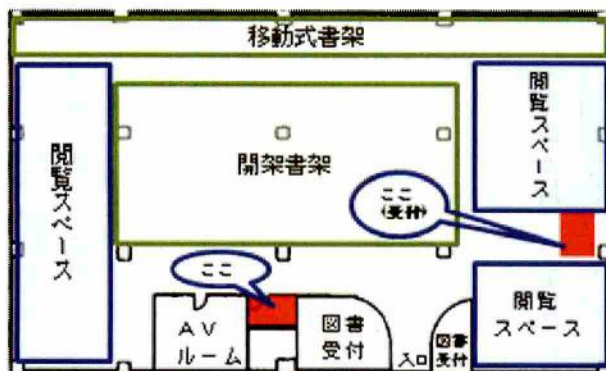


平成17年後期から本部棟三階で活動を行ってきたピアサポートルーム(学生による学習相談室)が、本年11月5日より活動場所を図書館に移し、新たなスタートを切りました。ピアサポートルームは、各学科の四年生及び大学院生が学習アドバイザーとなり、学習面での様々な相談に答えるというもので、今年は九名の学習アドバイザーが一日三回の相談時間にピアサポートルームに待機して学生の相談に答えています。

図書館でのピアサポートルームの開設場所は、図書館内の旧コピールームと学生駐車場側閲覧室の一角の二か所にスペースを確保し、通常は閲覧室で受付・相談を行い、人目が気になる相談者の場合は、旧コピールームに場所を移して相談を受けることにしています。

以前のピアサポートルームは、場所が分かりにくい、研究室と同じ並びで入り難いとの声もありましたが、図書館は学生が常時出入りしている場所なので、今まで敷居が高かった学生も気楽に相談できるようになるものと期待しています。

(学習支援センター)



■相談時間■

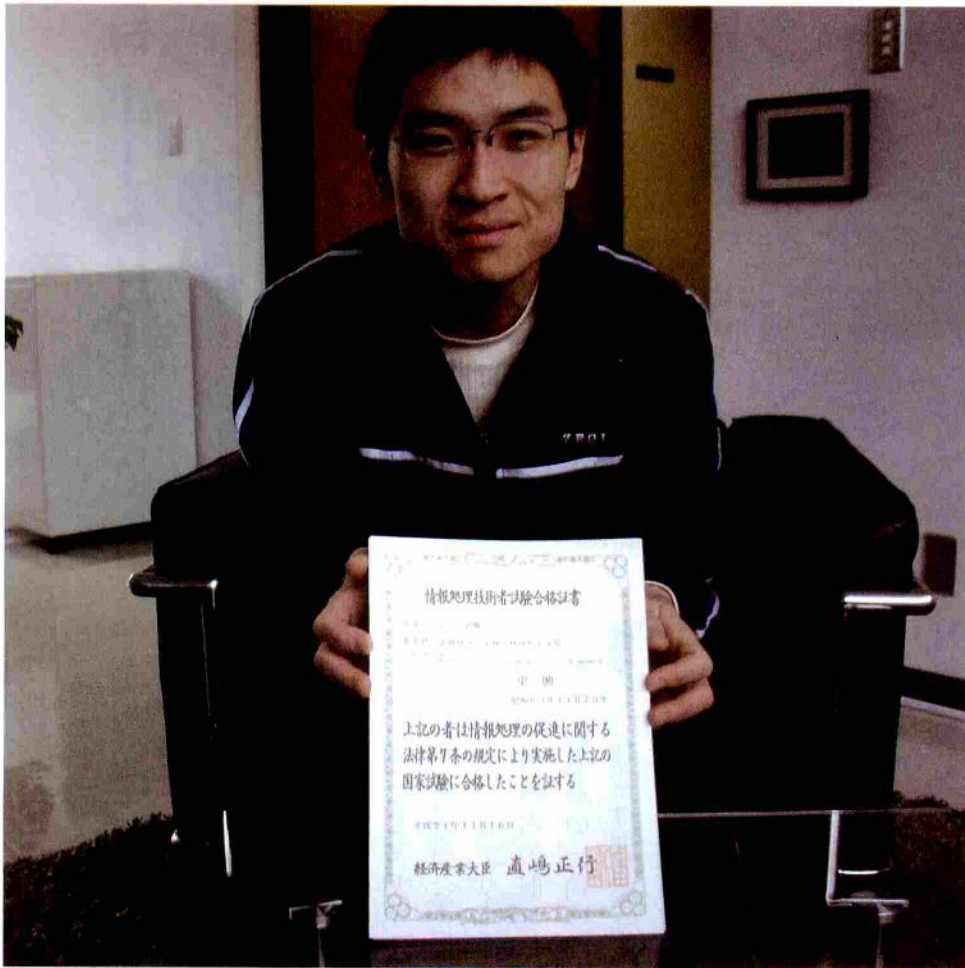
月曜日～金曜日

・12:00～13:30

・16:15～17:45

・17:50～18:50

留学生の史興君、ITパスポート試験に合格



平成21年10月に実施されました、秋期情報処理技術者試験のITパスポート試験に本学、情報メディア学部、情報メディア学科の二年生に在籍している留学生の史興(SHIXING)君が合格しました。

史興君は昨年、中国の南京大学二年生で日本文化研修に参加し本学を訪れました。以前より、日本に興味を持つていた史興君は、本学への訪問をきっかけに留学を志すようになり、南京大学を辞めて、今年(平成21年)の4月、本学の二年生に編入しました。

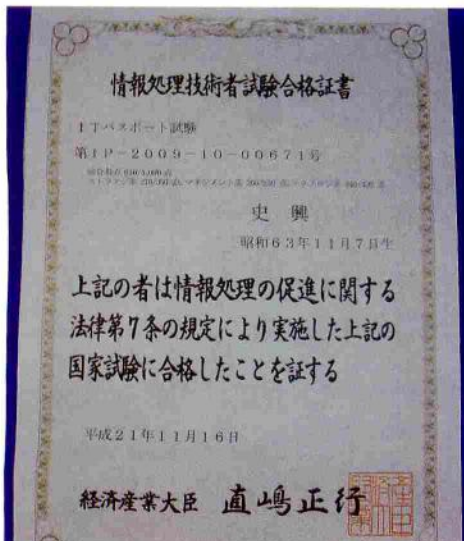
編入が決まってからは、趣味の範囲であった日本語の勉強にも力を入れ、留学前に独学で日本語能力試験1級を取得しました。

ITパスポート試験は今年の4月から実施されることになりました。今回が二回目ということで、過去に出題された問題も少なく、受験対策には苦労したようです。

教科書以外の参考書や問題集を入手したり、インターネットなどを活用して勉強したそうです。

それにしても、日本語という外国語で書かれた、専門分野の国家試験に、留学して半年間の短期間で挑戦する勇気と努力に敬意を表したいと思います。

「史興君、合格おめでとう！」



～新型インフルエンザについて～



今年4月に保健センターが開設しました。

保健センター（医務室）では、軽い症状やケガに対する処置などができ、また、一時休養がとれるようにベットを用意しています。

4月に実施した学生の健康診断の事後管理として、健康相談や血圧測定など随時実施しております。

メキシコに端を発した「豚インフルエンザウイルス」（新型インフルエンザ）は、世界各国へ感染拡大し、5月には国内での感染が確認されました。その後、都道府県へ感染が拡大し、本学においては、夏季休暇期間中の9月上旬にはじめて学生の感染者が出ました。

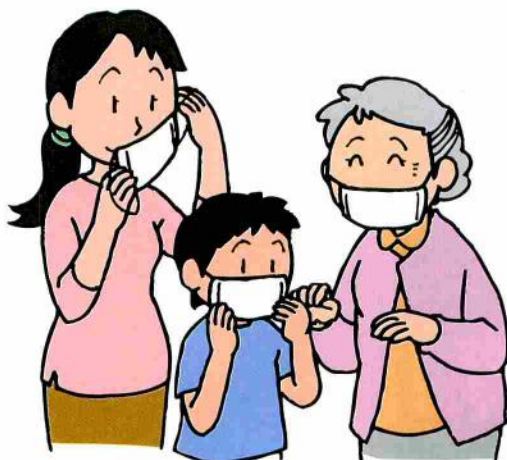
9月に、本学における新型インフルエンザ対策要綱を定め、その対応等を学内にも周知しました。

後期が開始されてから感染者からの連絡が次々と入り、クラスやゼミでの複数の感染者が出るなど感染拡大が懸念されましたが、集団感染に至ることなく、11月中旬に六人の感染者を最高に、一日一〜二名程度の感染者で経過しているところです。

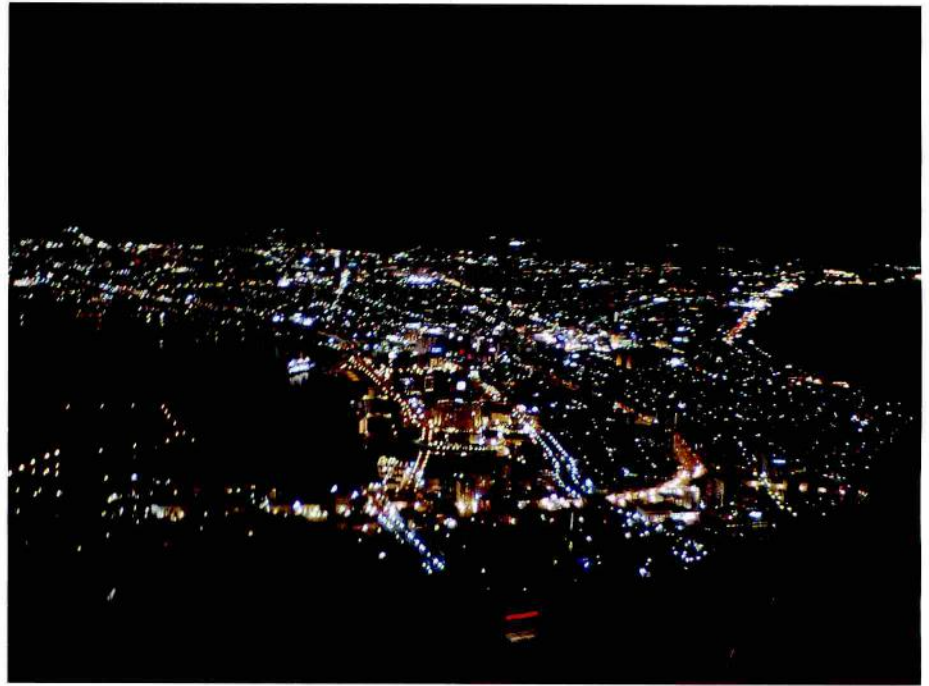
感染者（学生）は、身体の不調を訴えることが多く、その後高熱となり発症するような経過をたどっています。

インフルエンザウイルスの感染は、くしゃみや咳で飛び散ったしぶきを吸い込む「飛沫感染」、ウイルスが付着したものに触れた手で自分の鼻や口に触れる「接触感染」です。

感染を予防するために、「手洗い」「うがい」「マスクの着用」は以前から言われていることです。大院内では、手指用消毒液を学内に設置、くしゃみや咳がある学生にマスクを配布し、感染拡大防止策をとっています。



宿泊研修



函館市街の夜景

平成21年10月24日(土)、25日(日)、留学生・秋の宿泊研修として、函館に行ってきました。参加メンバーは、留学生四十八名、日本人学生スタッフ七名と引率教職員五名の総勢六十名でした。

今回の研修の目的は、今年9月に来日した一・四・五クラスの聴講生と、IT日本語クラスの先輩留学生間の親睦を図ることや、日本人学生スタッフとの交流を通して、日本での団体行動におけるルールやマナーについて体験学習をすることでした。

24日は松尾記念館前に八時五十分に集合し、二台の貸切バスに分乗し出発しました。

函館に向って、道央自動車道を南下し、途中の八雲パーキングエリアで昼食休憩しました。

このパーキングエリアは目の前に内浦湾を広範囲に望むことができる広々とした丘陵地にあり、晴天の下、ピクニック気分ですぐ弁当を食べることができ

ました。大沼公園では、先客の大型バスが何台も駐車しており、外国人観光客も訪れていました。

留学生たちもその中に混じって自然の木立の中を散策しながら、湖水に浮かぶ駒ヶ岳を背景に写真撮影を楽しんでいました。

函館市街の金森赤レンガ倉庫街に着いたときは、かなり陽も傾いていました。

金森赤レンガ倉庫街は、函館湾に面したウオータフロントにあり、明治時代の「金森洋物店」を起源とする古い趣のある赤レンガの外壁倉庫が原型をそのままに、ショッピングモールやビアホール・レストランが入居する観光名所となっています。

しばらく買い物や観光を楽しんだ後、宿舎となる函館温泉ホテルに向かいました。

宿舎で夕食を早めに済ませ、楽しみにしていた函館市街の夜景見学は函館山の山頂へ出かけました。この時期、山頂までのロープウェイが点検時期で運休しており、バス二台で山頂を目指しました。昼間であれば二十分もかからない行程ですが、この日は天候もよく夜景見物客の車が頂上まで続く渋滞で一時間ほどかかりました。



大沼公園

八雲パーキングエリア



留学生の

でも待った甲斐があり函館山からの夜景はすばらしいものでした。寒さも忘れ、しばらく見入っていました。留学生たちの研修旅行後の感想文でも、「宝箱のようだ」「満天の星座のようだ」と表現され感動していた気持ちも伝わってきました。

宿舎に戻り、皆で入る温泉大浴場もほぼ貸切状態で楽しいコミュニケーションの場になっていました。中には温泉大浴場に慣れていない学生もおり、スリッパを履いたまま入浴する者やバスタオルを湯船に浸ける者など驚きもありました。

初日の行程が終わり就寝時間が過ぎてても興奮してなかなか寝付けなかったようでした。

学生たちの中には、水平線から昇る陽の出を見ようと徹夜をし、朝の三時過ぎから宿舎裏の海岸に出かけた者もいたようです。

翌25日は、異国情緒があり、お洒落な雰囲気西部元町エリアを散策した後に、五稜郭タワーの展望台に登りました。展望台にある展示スペース五稜郭歴史回廊では、土方歳三の銅像や函館戦争関連の歴史をミニチュア模型で再現したものなど、楽しく見学できる工夫がされていました。

また、三百六十度の展望もす

ばらしく眼下には、星型の特別史跡五稜郭公園が広がっていました。

今回の研修目的の一つである、「学生間の交流」はかなり達成することができました。

しかし、集合時刻の厳守や団体行動でのマナーについてはまだまだ、守れない学生もいました。

今後の留学生生活を通して一緒に学んで行くことが大切だと思います。

おかげ様で、新型インフルエンザの影響も受けず無事に宿泊研修旅行を行うことができました。好天にも恵まれ、

長距離のバス移動も車窓からの紅(黄)

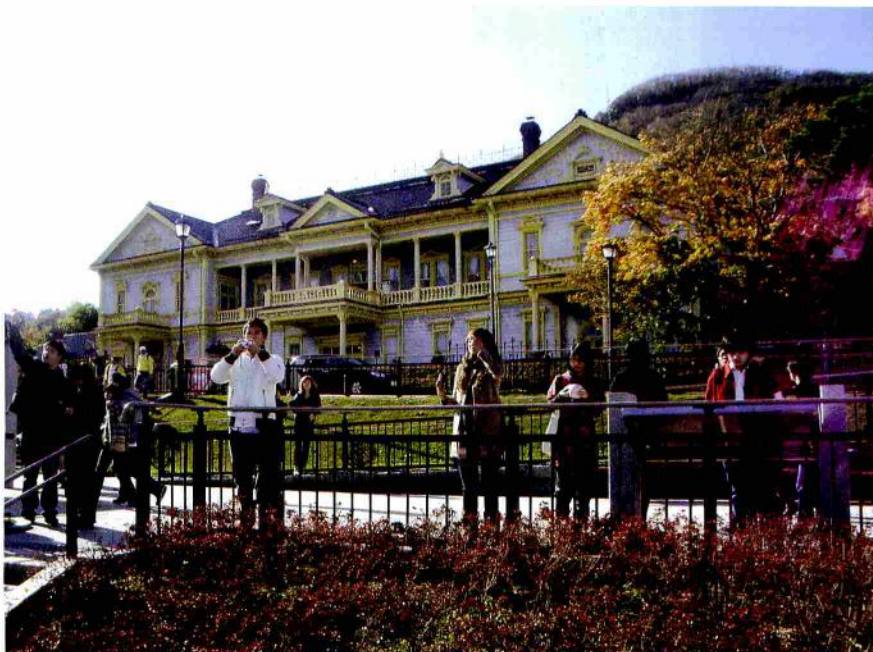
葉も鮮やかで、

海岸沿いの変化に富んだ道

南の自然を満喫することが

でき楽しく有意義な研修旅行ができました。

ご支援いただいた関係者の皆様に感謝いたします。



函館元町西部エリア



五稜郭公園

経営情報学部
システム情報学科

齋藤(康)ゼミ



る知識、すなわち、金融や流通に関する文系の知識が不可欠です。

現在、三年生が四人、四年生が九人の構成です。三年生は、日本史に関するデータベースを構築するプロジェクトを計画中で、その準備として、トピックマップという情報管理技術について学習しています。四年生は、ふたつのグループに分かれて、一年間にわたりシステム開発のプロジェクトを行ってきました。古今和歌集と新古今和歌集の比較分析を行うためのシステムと、流通関連企業で使用するデータベースの設計を支援するシステムです。その成果は、蒼天祭でも発表しました。

本ゼミの特徴のひとつは、学生主体のグループワークによるモノ作りのプロジェクトの実践を通して、仕事のやり方を学ぶことです。特に、コミュニケーション能力とスケジュール管理能力の育成を重視しています。授業の進め方は、学校での勉強というより、会社での仕事に近いといえます。週に一回の授業は、いわばプロジェクトにおける打合せの場に相当し、実質的な開発作業は、授業時間外に行います。もうひとつの特徴は、卒業生の残してくれた成果をもとに、それを発展させる方式です。これによって、三年以上の長期にわたる、卒業生を含む多数でのプロジェクトを実現しています。

本ゼミでは、「人文科学」と「データベース」をキーワードとしています。人文科学というのは、文学や歴史などを研究する分野です。コンピュータによる情報処理技術を学ぶシステム情報学科に、人文科学に関するゼミが存在するのは奇異に思われるかもしれませんが、近年、この分野にもコンピュータが活用されるようになってきました。もう一方のデータベースも、理系の世界と文系の世界を繋ぐものといえます。たとえば、銀行やコンビニで使うデータベースを設計するには、コンピュータなどの理系の知識だけでは不十分で、そこに格納するデータに関する



情報メディア学部
情報メディア学科

田城ゼミ

田城ゼミの同門のみなさんが年末に札幌で会合します。同門会の会長はアートコーポレーションの小倉佑太さんで、情報メディア学部四期生です。同門会には東京の会社に勤務して帰札する方と札幌で勤務している方を中心に、現役の三、四年生のゼミ生が参加して楽しい会合になります。

同窓といえども同門に譲るものです。所を隔てて活躍する同期の皆さんの再会の感激は言うに及ばず、新国際会計基準に適合する会計システムのソフトウェア開発技術者として、トップセールスマンとして、ニコンの撮像素子の設計者として世に立つ先輩と杯を交わして欲談する会合は、現役の後輩諸君には学生時代の思い出深い出来事となるでしょう。

田城ゼミはテーマを『数学とプログラムによるコンピュータ・グラフィック』としています。このテーマに取り組むには数学と図形科学やプログラムについてある程度の勉強が必要です。より基礎的な課題として『CADによる図形科学課題の設計政策』を選択できます。なお、希望があれば古典物理学の流体力学分野などの高度な課題を指導します。田城ゼミの配属を希望する皆さんには、卒業し、就職または進学する準備と活動力だけを求めています。三年生の前期はシラバスに詳しい『ドロップアウトの不経済学』を課題に学習を始め、職業人としての社会的統合を準備するためにインターンシップの受講指導を行い、後期には就職指導を行っています。

天文サークル「アルビレオ」

こんにちは！

天文サークル「アルビレオ」部長の黒川和哉です。アルビレオは、星を好きになることを目標に活動しています。

アルビレオはできて間もないサークルのためポスターなどでの部員呼びかけはしてません。そのため大学内でも知ってる人はごくわずかでしょう。なので、この機会にこのサークルのことをよく知ってもらおうと思います。

まず部員と観測場所ですが、部員は十二名とできたばかりにしては大所帯になっており、観測は主に学校のグラウンド付近、たまにホテルを見ることができる場所で観測をします。

観測のほかにも星座早見盤や簡易望遠鏡の作成、プラネタリウム鑑賞会などを行い、大学祭（蒼天祭）ではプラネタリウムを作成、夏休みには合宿を予定しています。

まだ部屋が無く部費も支給されないサークルですが、これから活気のある楽しいサークルにしていきます。

是非皆さんも観測会に参加してみてください。皆で自分達だけの星を探そう！



- 部員募集中 -

星に興味がある、観測してみたい方大歓迎です！！

↓まずは、ここに連絡↓

mail : rice.misosoup.korekihon@docomo.ne.jp

大学主要行事等

〈7月21日～12月1日〉

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

《教員》

■9月1日付

◎採用

教授	澤井 秀(システム情報学科)
教授	中村 正巳(システム情報学科)

《職員》

■10月31日付

◇法人本部◇

◎退職

経理課長(兼)総務課長	神谷 昇
-------------	------

■11月1日付

◇法人本部◇

◎就任

経理課長代理	東 英俊
--------	------

◎兼任

総務課長	中島 安敬
------	-------

◇大学事務局◇

◎採用

総務課課長補佐	今野 正登
---------	-------

◆◆ 主要行事 ◆◆

◇法人本部◇

10月15日(木)	評議員会・理事会
21日(水)	労使協議会

◇大学◇

7月25日(土) 教員免許状更新講習認定試験
31日(金) 前期授業終了

8月 1日(土)、3日(月)、4日(火) 合同試験
5日(水) 夏期休業
20日(木)～29日(土) 夏期集中講義
2日(日)～4日(火) A O入学試験(B日程)
3日(月) 高大連携連絡協議会
31日(月)～9月5日(土) 追再試験期間

9月 6日(日) A O入学試験(C日程)、高大連携特別A O入学試験
11日(金) 情報メディア学部教授会
12日(土) 保護者と教員との懇談会
18日(金) 経営情報学部教授会
24日(木)～25日(金) スタートアッププログラム
25日(金) 消防訓練
26日(土) 保護者と教員との懇談会
28日(月) 後期授業開講

10月 3日(土)～4日(日) 蒼天祭
8日(木)～9日(金) 大学機関別認証評価実地調査
16日(金) 経営情報学部教授会
17日(土)～18日(日) A O入学試験(D日程)
23日(金) 情報メディア学部教授会
26日(月) 名誉教授称号授与式
30日(金) 全学教授会
31日(土) 月曜授業実施日

11月 7日(土) A Oセミナー
13日(金) 経営情報学部教授会
21日(土) 教員免許状更新講習認定試験
23日(金) 情報メディア学部教授会
30日(金) 全学教授会

◇大学院◇
8月 4日(火) 学位論文等中間報告会
(兼 北海道情報大学学術奨学生選考会)
学生と教員による研究懇談会
9月19日(土) 大学院入学選抜試験(1次募集)
11月19日(木) 研究科委員会
27日(金) 京都大学経営管理大学院女性起業家プログラム訪問

◇通信教育部◇
7月21日(火)～24日(金) 前期I Pメディア授業科目試験
25日(土)～26日(日) 前期印刷・インターネットメディア授業科目試験②
28日(火) 新潟教育センター 大学見学
8月 3日(月)～8日(土) 夏期スクーリング(1)
10日(月)～15日(土) 夏期スクーリング(2)
21日(金) 秋期第1回入学選考
9月 1日(火) 後期I Pメディア授業放映開始
4日(金) 秋期第2回入学選考
17日(木) 秋期第3回入学選考
10月 1日(木) 後期インターネットメディア授業開始、秋期第4回入学選考
23日(金) 平成22年度第1回入学選考
11月12日(木) 全国教育責任者協議会
20日(金) 平成22年度第2回入学選考
21日(土)～22日(日) 後期印刷・インターネットメディア授業科目試験①

27日(金)～29日(日) 後期地方スクーリング(1)

◆◆ 主な来学者 ◆◆

9月14日(月) 南京大学 王院務委员会主任 一行
11月 8日(木)、9日(金) 日本高等教育評価機構評価員 一行

◆◆ 広報活動 ◆◆

◇北海道情報大学通信教育部 入学説明会; 本学独自◇
7月: 8会場(東京、福岡、広島、函館、旭川、帯広、釧路、北見)
8月: 4会場(名古屋、大阪、鹿児島、札幌)
9月: 2会場(東京、本学)

◇北海道情報大学通信教育部 合同入学説明会; 私立大学通信教育協会主催◇
8月: 2会場(名古屋、大阪)
9月: 3会場(東京、福岡、札幌)

<進学相談会>

8月: 北海道6会場(函館、旭川、北見、釧路、帯広、札幌)
青森県1会場(青森)
9月: 北海道5会場(小樽、室蘭、苫小牧、札幌、函館)
青森県2会場(青森、八戸)
岩手県1会場(盛岡)
秋田県1会場(秋田)

11月: 北海道8会場(小樽、函館、札幌、帯広、釧路、北見、旭川、苫小牧)
埼玉県1会場(さいたま)

<高校内ガイダンス>

7月: 北海道2校(中標津高校、穂別高校)
茨城県1校(つくば開成高校)

8月: 北海道3校(岩見沢西高校、札幌山の手高校、帯広三条高校)
9月: 北海道2校(旭川凌雲高校、北星学園大学附属高校)
埼玉県1校(小松原高校)
千葉県1校(敬愛学園高校)

10月: 北海道2校(北海道栄高校、札幌丘珠高校)
埼玉県1校(大宮開成高校)
東京都1校(関東第一高校)

11月: 北海道10校(小樽桜陽高校、恵庭南高校、札幌白石高校、旭川明成高校、紋別高校、石狩翔陽高校、札幌拓北高校、札幌北陵高校、苫小牧南高校、札幌龍谷学園高校)
東京都4校(東海大学菅生高校、関東第一高校、昭和第一高校(2))
神奈川県2校(横浜創学館高校、横浜清風高校)

<高校内進路講演会>

7月: 北海道1校(北海道芸術高校)
8月: 北海道3校(えりも高校、札幌真栄高校、訓子府高校)
9月: 北海道3校(札幌北高校(定時)、滝上高校、津別高校)
10月: 北海道1校(旭川龍谷高校)
11月: 北海道3校(小樽桜陽高校、古平高校、別海高校)

<高校出張講義>

7月: 北海道1校(釧路明輝高校)
8月: 北海道2校(常呂高校、石狩翔陽高校)
9月: 北海道2校(枝幸高校、稚内商工高校)
10月: 北海道1校(中標津高校)
11月: 北海道4校(静内高校、古平高校、江別高校、札幌西陵高校)

<高校訪問>

7月: 栃木県1校、埼玉県1校、千葉県1校、東京都2校、神奈川県1校
8月: 埼玉県1校、千葉県2校、東京都1校、神奈川県2校
9月: 北海道25校、青森県30校、岩手県30校、茨城県2校、栃木県8校、群馬県1校、東京都13校、神奈川県7校
10月: 北海道45校、秋田県30校、埼玉県3校、東京都1校、神奈川県4校
11月: 北海道85校、青森県30校、埼玉県1校、東京都1校

<オープンキャンパス>

7月25日(土) 本学/26日(日) 本学
8月 1日(土) 本学/3日(月) 北見、釧路、函館/4日(火) 旭川、帯広/23日(日) 本学
30日(日) 本学
10月 3日(土) 本学
11月15日(日) 本学

<A O入試・奨学金説明会>

8月 6日(木) 本学
9月13日(日) 本学

<広報室来学者>

7月28日(火) 帯広工業高校(大学見学: 生徒7名、教員1名)
9月15日(火) 石狩翔陽高校(大学見学: 生徒41名)
25日(金) 江別高校(大学見学: 生徒49名、教員2名)
26日(土) 釧路明輝高校(高大連携大学見学: 生徒10名、教員1名)
10月14日(水) 札幌創成高校(大学見学: 生徒19名)
21日(水) 札幌大通高校(大学見学: 生徒20名)
11月 1日(日) 仁木商業高校(生徒1名)
6日(金) 旭川龍谷高校(大学見学: 生徒17名、教員1名)
9日(月) 新篠津小学校(大学見学: 小学5年生37名、教員2名)
11日(水) 上士幌高校(大学見学: 生徒21名)
11日(水) 千歳北陽高校(大学見学: 生徒29名、教員1名)

編集後記

野山もすっかり冬支度が整って、雪景色への衣替えを待っているかのようです。今年、時ならぬ新型インフルエンザの流行に、本学でも学生や教職員がその猛威に襲われましたが、幸いにも集団的な発症には至っておりません。本号も蒼天祭、留学生研修、海外学生交流などの学生関連行事が目を見えます。一方で、不況のうねりは、学生の就職活動に厳しく影響を与えております。景気の衣替えを期待したいものです。

(喜)

学内報について、ご意見、ご要望などがございましたらnanakamado@do-johodai.ac.jpまでお寄せ下さい。